

アマナ救出植え替えから 11 年、順調に増殖、群落を確認

福井 真由美

3月9日(日)午前、天気良好、春の花の中でも特に早く咲くアマナ、そのアマナの花が開花していることを期待し、木津川の寺田さくら堤へ会員3人でアマナを見に行きました。今年の気候条件から見て、開花時期より若干早かったのか、つぼみはかなり見ることはできましたが、開花しているものは発見できませんでした。

アマナは晴れた日の日中にしか開花しません。翌日の3月10日も快晴、気温16度、この日は午後3時ごろつぼみが開花していることを期待し、再度さくら堤を訪れました。

小さいながらも可憐な春の妖精と呼ばれる姿は鑑賞する価値はあると思いますが、栽培は易しくありません。背丈の高い草地には生えないため、草刈りや野焼きの行われるような、里山的環境に見られることが多く、人が自然と寄り添いながら暮らす里山が、アマナのすみかに適しているのです。

今では、アマナは、多くの都道府県で絶滅危惧種として指定されてしまいましたが、城陽では堤防工事によってアマナの姿が消えてしまうのではという危惧を払拭すべく、今から11年前に救出植え替えが行われ、今回の観察でも移植されたアマナは順調に増殖し、葉の繁殖状態から見てさくら堤東側斜面上部に幅2メートル長さ50メートルくらいの範囲でアマナ群落は保全されていました。この日、開花している花は目視で20数個確認できました。

危惧されることとしては、さび病が見られたことです。さび病はカビ(糸状菌)の一種である「さび病菌」に感染することで発生する病気で、かかると苗の生育が阻害



開花しそうな蕾



アマナの花

今年度の総会は5月18日(日)にパレットで行います。記念講演は二つの水度神社のお話、講師は水田清比古さん(水度神社宮司)です。(詳しくは最終ページをご覧ください)